

## パラソルの表現性

一宮女子短大 山村 明子

目的：パラソル（日傘）は本来、日除け用としての実用品である。しかし、多様な素材、意匠を凝らしたパラソルの中にはその機能を果たせないようなものもあり、実用性を越えて婦人の装飾品として愛好されていたと考えられる。本報では特にその流行が指摘されている19世紀のヨーロッパにおける婦人用パラソルについて調査し、「手に持つ装飾品」としてのパラソルの表現性について考察する。

方法：19世紀に欧米で発行された婦人用モード雑誌を資料として、当時のパラソルの形状、流行の様相について明らかにする。さらに文学資料から、パラソルに託す婦人達の心情について考察する。

結果：18世紀の自然志向の風潮の中、上流階級の女性達は戸外での散歩の折りなどにパラソルを手にするようになった。そして19世紀にはそれは一般的な服飾品として広く流行するに至った。基本的な形状には大きな変化は認められないが、傘の部分が柄に対して平行に開く物もファッション画にみられた。また極端に傘の小さな物も出現しており、それは日除けとしての機能よりもファッション性を重視した物であったと考えられる。さらに当時のポートレートなどに室内での撮影にもかかわらず、パラソルを手にする者もあり、パラソルは淑女の装いの仕上げとして欠かせない物であったことがわかる。